



帝京平成大学
オープンキャンパス

薬学部

楽しく学ぼう！

2025 06 28

模擬授業

体験実習

オープンラボ

ガイド

薬学部・オープンキャンパス タイムスケジュール

- ◆ 薬学科のご説明（是非ご参加ください）（3階303教室）
11:40～12:10 13:50～14:20
- ◆ 模擬授業（3階303教室）「一生涯患者さんの気持ちに寄り添ってくれる薬の設計」
12:10～12:30 14:20～14:40
- ◆ 薬育デモンストレーション（3階303教室）
「実際の“薬育”の様子を見てみよう！」 12:30～12:40 14:40～14:50
- ◆ 体験実習（3階318教室）
「軟膏の混合調剤を体験してみよう！」 10:00～15:00
- ◆ 体験実習（4階436教室 SGDルーム）
「薬剤師の仕事体験（実習）」 10:00～15:00
1) ロボットシミュレーターを使って、フィジカルアセスメントを体験
2) Webシステムを使って、オンライン服薬指導を体験
- ◆ オープンラボ（3階315研究室）
「有機化学の実験室を覗いてみよう！」 10:00～15:00
- ◆ 学生交流・進学相談（4階436教室）
「薬学部のこと、薬剤師のこと、なんでも訊いてみよう」 10:00～15:00

その他（全学部共通）

大学概要・入学者選抜制度説明	10:05～10:45	11:40～12:20	13:00～13:40	（4階442教室）
面接対策講座	10:45～11:15	12:20～12:50		（4階442教室）
食堂体験	11:00～15:00			（1階 学生食堂）（ラストオーダー 14:00）
キャンパスツアー（所要時間 20～30分）	1階 正面玄関付近	10:00～15:00		（最終受付 14:30）
留学・海外研修制度説明	11:15～11:30	13:40～13:55		（4階442教室）
部活動パフォーマンス	11:50～12:20	13:00～13:30		（5階アリーナ）
学生トークライブ	11:05～11:35			（1階104教室）

以下は10:00～15:00

個別相談（入学者選抜・奨学制度・就職・住まい・留学・海外研修）	1階 正面玄関付近
学生交流コーナー（部活動・サークルブース）	1階 正面玄関付近
メディアライブラリーセンター（図書館）見学	8階 図書館
薬用植物園見学	7階 エレベーター横

模擬授業 12:10~12:30 14:20~14:40 303教室 (3階)

一生涯患者さんの気持ちに 寄り添ってくれる薬の設計

ひと昔前までは、病気を治すためには、薬は我慢してでも飲むものでした。しかしながら、薬を、いやでも一生飲み続けなければならない患者さんのことを考えると、「一生涯患者さんの気持ちに寄り添ってくれる薬」を造らなければと思っていました。患者さんが嫌いな飲み薬は数多くあるものの、老若男女、共通して、苦い薬、飲みこみにくい薬だと思えます。そこで、口の中でスッと溶けてしまい苦味を感じない錠剤（OD錠）を設計し、製薬会社のご尽力により医療に提供してきました。実は、OD錠には添付文書にない臨床的機能性があるのです。患者さんの嚥下困難を救済する機能の他に、飲水量を減らせたり、人知れず服用できたり、最終的には服薬の確実性を高め期待する治療効果が得られる機能があります。本学の学生は、このような患者さんの気持ちを大切にした薬について学習しています。



東京薬科大学卒業後、東京慈恵会医科大学
附属病院薬局薬剤師、静岡県立大学薬学部
教授を経て、現在に至る。
博士（薬学）、静岡県立大学名誉教授

一生飲み続けなければならない薬だからこそ、患者さんの気持ちに寄り添ってくれる薬を選んであげたいですね。

並木 徳之
物理薬剤学ユニット

“薬育”デモンストレーション 実際の“薬育”の様子を見てみよう！

会場・時間

学科説明会場 (3階 303教室)

12:30~12:40 14:40~14:50

(模擬授業の後、10分間で行います。)

- 現在薬剤師は、地域住民の予防や未病に積極的に係る健康サポート役割が求められています。
- “薬育”とは、薬学生が小中学校や高齢者施設等へ赴き、医薬品の適正使用や薬物乱用防止など健康な身体をつくるための教育活動です。
- 本学では2018年に開始し、2021年からは地域連携部の学生を中心に、継続的に行っています。
- 2年生後期のセミナー科目でも、学生同士で行う“薬育”を取り入れています。
- 実際に学生が行っている様子をご覧ください！



- 担当 薬育・地域連携委員会 地域連携部

体験実習

軟膏の混合調剤を体験してみよう！

会場・時間

調剤実習室（3階 318）

10：00～15：00

- 薬剤師は、処方箋に基づく調剤を行う際、錠剤、散剤、水剤、外用剤など様々な剤形を扱います。
- 調剤は、製品をそのまま使用する場合と、複数の薬剤を混合して包装したり、容器に充填することが必要な場合があります。
- 今回は、軟膏をへらを使って混合し、容器につめてみましょう！



- 担当 薬学臨床教育研究センター
社会薬学教育研究センター

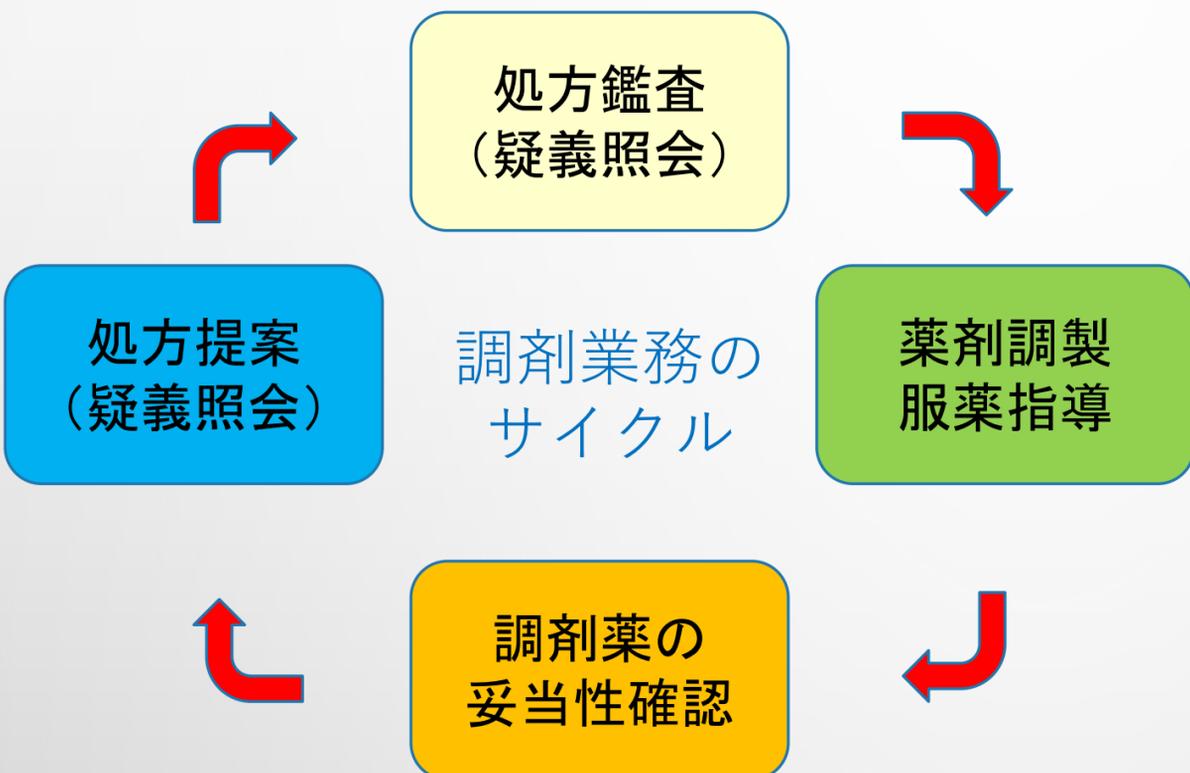


薬剤師の仕事体験（実習）

- 1) ロボットシミュレーターを使って、フィジカルアセスメントを体験
- 2) WEBシステムを使って、オンライン服薬指導を体験

会場：SGDルーム（4階 436教室）

フィジカルアセスメント体験：薬剤師が視診や聴診、触診などによって患者さんの 全身状態を評価すること、いわゆる「フィジカルアセスメント」を行うことにより、副作用の防止や薬物療法の効果の判定に寄与することが出来ると期待されています。



お薬はちゃんと効いているのか？
副作用は出ていないか？

薬剤師に求められる新たな技術

薬剤師からの聞き取り
患者さん自身の訴え
患者さんの外観
臨床検査の値



皮膚の状態、むくみ、脈拍
呼吸の音
心臓の音
お腹の音

基本的項目

フィジカルアセスメント

オンライン服薬指導体験：感染などの状況があっても薬剤師と患者の信頼関係を常に継続することが可能となります。

外来通院

- ・他科受診
- ・多剤服用
- ・OTCとの併用
- ・サプリメント等の併用
- ・勤務時間との調整 etc.

在宅療養

- ・服用、嚥下困難
- ・一包化、粉碎
- ・管理困難
- ・介護者不在の時間 etc.

オープンラボ

薬学のラボを体験しよう！！

有機化学の実験室を覗いてみよう

会場 専門ラボ1 (3階 315)

時間 10:00 ~ 15:00 (見学随時)

医薬品の多くは分子量が数百程度の有機化合物で、いずれも有機合成や天然物探索の手法によって見つかってきました。

医薬品の薬理作用を理解するためには、有機化学を基盤とした分子レベルでの知見は欠かせません。

私達は、医薬品の候補となりうる薬理活性物質を有機合成によって探索したり、それらの合成法を開発したりしています。

今回のオープンラボでは、有機化学の実験でよく使用される

①パーソナル有機合成装置、②クロマトグラフによる有機化合物の分離装置など、私達の研究現場の日常をご覧いただけます。



パーソナル有機合成装置
同時に複数の化学反応を実施できる装置



中圧分取クロマトグラフィー
混合物から化合物を分離するための装置



核磁気共鳴装置 (NMR)
有機化合物の構造を決定するための装置
(本装置は別室となります)

担当教員 創薬科学ユニット 栗原 健一
医薬有機化学ユニット 赤木 祐介